

エクセレント節成 1号・2号

- ◎省力で多収、高品質で秀品率が抜群に高い・褐斑病にも強い
- ◎弱光線・低温に適応出来る1号、強光線・高気温に適応性高い2号



【特性】

- 1号は2号より耐寒性がやや強い。
- 2号は1号より耐暑性があり草勢やや強い。
- 濃緑で光沢があり、おいしく市場性抜群。
- 果長の変化、尻細り、尻太り極めて少なく、揃いの良い果実が獲れ、秀品率抜群。
- 枝が間伸びする事がないため摘芯の労力を大幅に軽減。
- どんどん追い込むタイプなので肥培管理が楽。
- 特に褐斑病に強い。



OS交配 エクセレント節成 1号・2号

特性

1号・2号とも節成り性が強く、収量構成は、高いレベルで安定・維持し、無理な負担がかかりにくいので秀品率もよい

	1号	2号	主枝着果率	
適作型・雌花率	・ハウス促成 ・ハウス半促成 ・雨除け ・ハウス抑制	9~11月播き(西南暖地) 12~2月播き 7/中~9/初播き	1~2月播き 3~5月播き 6~8/上播き	60~70% 1果成り 80~90% 1果成り 50~70% 1果成り 40~60% 1果成り
茎	太く、節間は、主枝で中位。側枝で中~短、孫枝で短となり、いずれも雌花連続性高い。			
葉	1号は濃緑色でやや小葉。2号は鮮緑色で中位の大きさ。			
果	濃緑で光沢極良。トゲ中位。100gで20~21cm。首~尻までよく整い、肩コケ、尻太が少ない。食味は良好。日やけ果は極めてでにくい。高温時期2号の空洞果の発生は極めて少ない。			
草姿・草勢	葉は、水平に展開し、過繁茂になりにくいスッキリとした受光性の良い草姿であるため、長期に亘ってスタミナが維持される。草勢は2号がやや強い。			
収量	早生で初期収量多い。肥大が早く、シーズンを通して秀品多収。			
耐病性	べト、ウドンコ、褐斑病に強い。			
備考	主枝成り性が強く肥大性が良いため、しっかりとした樹作りが必要 太り始めたらずめにどんどん追い込むタイプ。			

栽培のポイント

◆育苗

- 鉢育苗では、床土はリンサンを含む腐植の多い良質床土を準備する。定植時に鉢土にくずれのない程度に育苗日数をとる。
- 最適台木は、OS交配ゆうゆう一輝(黒タイプ)が良く、高い生産力を発揮させる。

◆植え付け本数

- 節成り性が高い品種であるがあまり密植しない事がコツである。3.3m² 当り半促成5株、雨除けやハウス抑制で4.5株である。

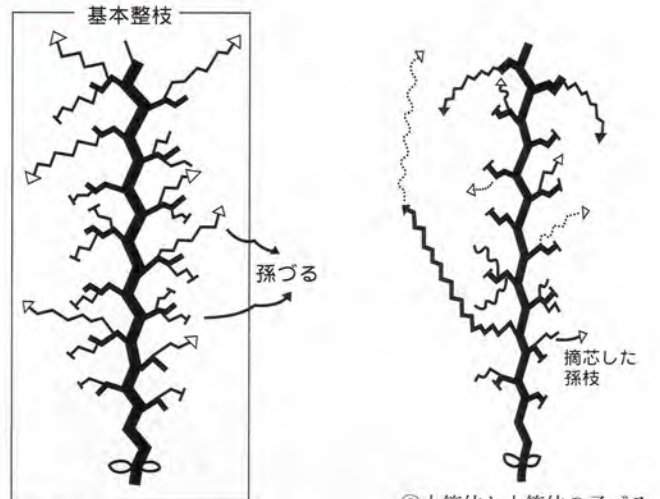
◆施肥

- 元肥は、量や質は一般に準じて良い。バランスの良い肥効がその後の草勢や品質、収量に影響するので必ず施用前に土壌検定による施肥設計をすると良い。
- 追肥は、通常早目が良い。生育振りによるが、収穫しようとする果の開花から4~5日後や抑制では主枝の適芯時等が追肥始めの目安となる。10a 当りNで1kg位を5~7日おきに施用すると良い。

◆灌水

- 定植2~3日間前にタツプリ灌水しておき定植日に土中水分の過不足のないように準備する。定植後、乾き易い抑制では根量が増え、日々生長が活発になってくるまでは多めの灌水をする。各作型とも旺盛に生育できるよう、活着後も水をあまり切らずに順調に側枝が発生、生育する様に晴天の日中地表面が乾かないように灌水する。

◆整枝



①子づるは、下節位を1節、中~上節位を2節で摘み孫づるを半放任する。

②中節位と上節位の子づるを1~2本伸ばし孫づるは半放任。

*収穫開始頃から常に伸び続ける枝を1号は5~6本、2号は3~5本確保し続けると良い。

◆摘果

- 順調であっても下節位最低7節迄摘果する。

◆摘葉

- 収穫最盛期を過ぎる頃から古い日陰葉や込みすぎた部位を一回当り1~2枚を限度として除くと良いが常に全体に亘り収穫果が見え隠れする程度に整える。



きゅうり・かぼちゃ・メロン育成元
株式会社 埼玉原種育成会
〒346-0105 埼玉県久喜市高蒲町新堀2616
TEL.0480(85)0854(代)
FAX.0480(85)0407



OS交配種子・発売元
株式会社 シード
〒346-0105 埼玉県久喜市高蒲町新堀2616
TEL.0480(85)7211(代)